
フォーミュラ・ニッポン第2戦 RACE Report 2009/05/17 鈴鹿サーキット 決勝

●タフなウェットレースを制し、ロイックが今季初優勝！

フォーミュラ・ニッポンのウォームアップ走行開始と同時に雨が強く降り出し、コースは瞬く間にフルウェットコンディションとなった。第2戦決勝は午後2時30分にスタート。3番グリッドから抜群のスタートを決めたロイックはポジションを1つあげて2番手で1コーナーを回った。序盤こそ、トップのブノワ・トレルイエ選手に4秒近くまで離されたロイックだったが、10周を過ぎたころから徐々にペースアップ、その差を1秒以内にまで縮めると、数周にわたる熾烈なトップ争いが始まった。2分0秒台のタイムを並べるブノワ選手に対し、1分59秒台のタイムを連発して迫るロイックは、28周目のヘアピンで並びかけると、スプーンコーナーまでのサイド・バイ・サイドのバトルに勝利しついにトップに立つ。その後、ブノワ選手がピットインを済ませたあと、30周を終了したところでピットイン。給油のみの作業を済ませ、再びトップでコースに復帰した。最後まで1分58秒台の好ペースで周回を重ねたロイックは最終的に20秒の大差をつけて、今季初優勝を決めた。一方の小暮は5番手グリッドながらスタートでエンジンストール。押し掛けでなんとかエンジンをスタートさせ、最後尾から猛追を開始した。が、4周目に前方のマシンと接触、ノーズを破損してしまい緊急ピットイン。作業を済ませると再び後方からの追い上げとなった。マシンのペースはトップグループと変わらない小暮は、前方のマシンにみるみると追いついたが、17周目のヘアピンで再び前のマシンと接触、そのままコースアウトし、レース終了となった。

●中嶋悟総監督

「うちはシーズン始めがあまり良くないことが多いのですが、第2戦で勝てて良かった。何にもまして、鈴鹿の新しいコースで最初に勝って、新しいポディウムが一番高いところに最初に乗ることができてとても嬉しいです。小暮君に関しては、ちょっと残念でした。前のマシンとはかなりスピード差があったので、その感覚の見誤りじゃなかなどは思うんですが。ロイックの優勝は嬉しいけど、半分寂しいなという思いです」

●ロイック・デュバル 優勝/1:26' 44.751/43周

「とてもタフなレースで優勝できて本当にうれしいよ。パーフェクトなレースになったと思う。まずはスタートが決まって2番手に上がったし、ブノワ選手は最初とても速かったけど、途中からはどんどん追い上げていった。マシンは完璧だったし、チームに感謝したい」

PIAA

EPSON

ZOJIRUSHI

ZURICH

HONDA

S&F

D

BRIDGESTONE

NGK

BBS

GR2

PERFORMANCE

Am



小暮卓史 リタイア/16周

「スタートでエンジンストールしてしまい最後尾に落ちてしまいましたが、クルマのペースは良かったのでどんどんプッシュしていきました。いくらか挽回はしたのですが、接触して想定外のピットインを余儀なくされ、降り出しに戻してしまいました。その後もスピでレースを終えてしまい、チームにも申し訳ないことをしました」

PIAA

EPSON

ZOJIRUSHI

ZURICH

HONDA

S&F

D

BRIDGESTONE

NGK

BBS

GR2

PERFORMANCE

Arai